

地域3

パラメータ適用パターン

該当する地域

栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、新潟県※

※H19年中越沖地震に伴うパラメータ提供範囲については、別途考慮が必要なため、地域8の適用パターンを参照すること

※H16年の中越地震では上下変動が複雑でパラメータ改算ではなく全て改測によって成果が改定されたので、明治標高不整合が解消されている。そのため中越地震の該当地域については、下記の使用するパラメータから測量時期の違いによる不整合量補正パラメータを除くこと

パラメータ補正は表中の番号順に実施し、各補正の出力値を次のパラメータの入力値とすること

測量時期	基準点の種類と補正に使用するパラメータ	
<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="margin-bottom: 20px;">H23. 3.11</div> <div style="font-size: 4em; margin-bottom: 20px;">↓</div> <div style="margin-bottom: 20px;">H26. 4.1 (離島除く)</div> <div style="margin-bottom: 20px;">H28. 4.1 (佐渡・粟島)</div> </div>	測量時の与点	補正に使用するパラメータ
	電子基準点 電子基準点に準拠した 三角点・基準点	東北地方太平洋沖地震パラメータで水平座標補正後 ①測地成果2011移行パラメータ ②ジオイド・モデル改定パラメータ
	その他	東北地方太平洋沖地震パラメータで水平座標補正後 ①測量時期の違いによる不整合量補正パラメータ ②測地成果2011移行パラメータ ③ジオイド・モデル改定パラメータ ※粟島の場合、平成28年4月時点でパラメータ①が存在しないため、補正することはできません。
	東北地方太平洋沖地震	
	測量時の与点	補正に使用するパラメータ
	電子基準点 東北地方太平洋沖地震後の 測量によって電子基準点に準 拠した三角点・基準点	①ジオイド・モデル改定パラメータ
	東北地方太平洋沖地震前の 測量によって電子基準点に準 拠した三角点・基準点	①測地成果2011移行パラメータ ②ジオイド・モデル改定パラメータ
	その他	①測量時期の違いによる不整合量補正パラメータ ②測地成果2011移行パラメータ ③ジオイド・モデル改定パラメータ ※粟島の場合、平成28年4月時点でパラメータ①が存在しないため、補正することはできません。
	ジオイド・モデル改定	

今回の標高改定で考慮すべき補正パラメータ

【既存のパラメータ】

- H19年 能登半島地震標高補正
- H19年 中越沖地震標高補正
- H20年 北海道三角点標高改定
- H21年 紀伊半島三角点標高改定
- H22年 東北三角点標高改定
- H23年 東北地方太平洋沖地震 座標及び標高補正

(「H20年 岩手・宮城内陸地震標高補正」は、「H22年 東北三角点標高改定」の補正量と同一のもので考慮しない。また、「H19-20 宮古島標高補正」については、今回の標高改定範囲に含まれていないので考慮しない)

【新たに作成するパラメータ】

- 測量時期の違いによる標高不整合補正
長年の地殻変動等による標高変動量の補正。電子基準点に準拠していない基準点等で使用本パラメータを用いて補正することで、旧ジオイド・モデル(日本のジオイド2000)に整合した標高となる。
- ジオイド・モデルの改定に伴う標高補正
ジオイド・モデルの改定に伴う標高の補正
- 測地成果2011への移行に伴う標高不整合補正
測地成果2000から2011に移行した際に生じた中日本での標高不整合の補正
- 電子基準点楕円体高改定に伴う標高補正
H26/4/1の電子基準点楕円体高改定に伴う標高の補正

補正パラメータ適用パターンの選択において必要な情報

【測量地域】

対象とする基準点成果等あるいはその測量の地域(都道府県)

【測量時期】

基準点成果等を求めるために行なった測量の実施時期

【測量の既知点】

基準点成果等を求めるために行なった測量における既知点の種類